



SDGs推進における 地方自治体の役割

2021/1/30

学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学
田中里沙

活動を通して感じている課題 (田中)

- 1 SDGsを生かしてイノベーションを起こす考えと流れが不十分なこと。
 - 2 My SDGsとして、課題を“自分ごと化”できていないこと。
- だれひとり取り残さないSDGs推進において自治体の役割はプラットフォーマー。
「誰もが関われる環境を提供すること」

学校法人 先端教育機構におけるSDGsの取り組み

—事業構想・研究会・出版・啓発イベントでSDGs達成に貢献する—

学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学

2021年1月



■ 産学連携・新規事業

SDGs新事業プロジェクト研究

SDGsへの理解を深めながら、新たな事業を開発する1年間の研究会です。研究会は10~15名程度で構成され、事業構想修士カリキュラムのエッセンスと、SDGsに関する有識者をゲスト講師として招聘し、SDGsの本質・政策・実践事例などへの理解を深め、ネットワークを構築するカリキュラムで構成されています。東京・名古屋・大阪で11の研究会を立ち上げ、100名以上が参画しています。



■ 出版・書籍

「SDGsの基礎」「SDGsの実践」

出版部門では、京都議定書を踏まえ、「環境ビジネス(1998年創刊)」「環境会議(1999年創刊)」を20年以上にわたり発行しています。その経験から、さらにSDGsへの理解を深めるため、書籍「SDGsの基礎」「SDGsの実践—自治体・地域活性化編—」さらには、最新事例の紹介のため「SDGs経営」を発行しています。SDGsの基礎は1万部を超え、社内研修でも活用頂いています。



■ 官学連携・地域活性 (ローカルSDGs)

ランナーズ・ヴィレッジ™

農林水産省が目標として設定する農泊先進地域500の創出に向けて、「何気ない道を、走りたくなる道へ」をコンセプトに、地域の四季折々の特色・景観と既存の道を活かしたランニングコースと宿泊をセットにしたスポーツツーリズムを開発しています。2017年より始動した本プロジェクトは現在全国7地域で実施しています。



RUNNERS VILLAGE



社会と共創し、未来を拓く人材を育成する

学校法人先端教育機構では、教育・研究機関として「質の高い教育」の提供と、官民連携や産官学の「パートナーシップ」の実践を軸に、SDGsの達成に貢献します。知の実践研究を通して、イノベーションの実践、産業基盤の構築、持続可能なまちづくりの実戦をSDGs重点分野として取り組んでいます。

1



パートナーシップ・産官学連携の実践

新事業の開発や、地域活性化の構想計画を目指すため、官民連携・産官学連携など、マルチステークホルダー・パートナーシップの実践に取り組みます。大学院生や研究生同士のネットワーク・パートナーシップの推進はもちろんのこと、横浜市など自治体との連携協定や、岡山大学・信州大学などとの大学間包括連携協定を結び、新たな価値創出に貢献しています。

2



SDGs達成に向けた実践研究と出版

持続可能な社会の実現に向けた、質の高い実践的教育を、修士号・SDGs新事業プロジェクト研究・SDGs関連の出版・セミナーを通して実践します。また、質の高い教育を提供するための教育者の育成を、実務家教員養成課程などを通して実践します。さらに、2030年に社会人になる小中学生に対しても、SDGs啓発や地球やまちの持続性についての教育を行います。

3



新事業を通じた地域における雇用創出

地域の活性化や、新たな事業の開発を通して、働きがいのある仕事を多数生み出す事を通して、様々な働き方や就業機会を増やすことに貢献します。例えば、農山漁村地域の活性化プロジェクト「ランナーズ・ビレッジ」などを通して人口減少地域・過疎地域においては、持続可能な事業を開発しつつ、新たな仕事を創出して行きます。

4



イノベーションの促進

イノベーションの促進や、産業の多様化、商品への付加価値創造を、事業構想大学院大学の研究・教育を通して実践しています。264名の事業構想修士生を輩出し、SDGs新事業プロジェクト研究では、110名の研究員が参画しています。すでに多くのイノベーションが生み出しています。

5



持続可能な地域社会の実現

持続可能な地域社会を実現するために、地域における活性化を、名古屋・大阪・福岡といった地域においても、事業構想大学院を開校しています。栃木県・飯田市など地域においても事業構想家を輩出するプログラムを実施しています。さらに今後は、47都道府県に事業構想大学院大学の設立を目指し、地域における持続可能性の実現を目指します。

SDGsへの具体的な実践事例

- 1 : SDGs新事業プロジェクト研究
 - 大阪校 (1期・2期・3期・4期)
 - 東京校 (1期・2期・3期・4期・5期・6期)
 - 名古屋校 (1期)
 - 1社型
- 2 : SDGsメディア
 - 書籍「SDGsの基礎」
 - 書籍「SDGsの実戦」
 - 「SDGs経営」
 - 「環境・人間会議」
 - 「未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK」
 - 「未来の授業 SDGsライフキャリアBOOK」
- 3 : 地域活性・ローカルSDGs
 - 地域循環共生圏
 - ランナーズ・ビレッジ (農山漁村地域の活性化)
- 4 : 連携・パートナーシップ
 - 岡山大学との大学間包括連携協定
 - 信州大学との大学間包括連携協定
 - 横浜市との連携協定
 - 富山市との事業構想研究会

SDGsの共創の場 / 起業、新事業、イノベーション

本学では、SDGsの認知・啓発のみならず、共創の場を創出し、起業・新事業・イノベーションを創発します。本学の有する、人材・技術・ノウハウ、ネットワーク、情報発信・PRを活用することで、院生・修了生と地方自治体との共創、地方創生に資する新事業の開発、地域活性に向けた情報発信・PRといった役割を担います。

人材	世界的視野からソーシャルイシューを明確に定義でき、具体的な解決方法の仮説構築を通じて事業構想として立案し、事業構想の実践を通じて、社会課題解決にチャレンジできる、修士課程の現役生・修了生並びに、プロジェクト研究の研究員・修了生
技術・ノウハウ	事業構想サイクル(発着想・構想案・フィールドリサーチ・構想計画・コミュニケーション)を活用した、事業構想と構想計画のための研究・教育の学術的方法論、および、アカデミア・実務家が融合した教授陣のスキルと経験
ネットワーク	過去1000名を超える、修士課程の院生・修了生、プロジェクト研究員・修了生、教員、ゲスト講師、ならびに、媒体取材先ネットワークとその融合。本学では、年間150名を超えるゲスト講師を招聘し、新たな挑戦をするための幅広いネットワークを構築しています。
情報発信・PR	月刊事業構想・月刊先端教育(ともに発行部数5万部)ならびに、オンラインサイト・SNSを活用した情報発信が可能。経営者、新事業担当者、自治体首長などがおもしろい読者のため、本プログラムの情報発信先として適切な対象者を有しています。



事例1：横浜市 水辺を活かした新たな魅力づくり

中長期的な取組で地方創生を実現するため、協定に基づき自治体と連携し、事業構想大学院大学の知見やノウハウ等を活用して、地域の活性化を狙いとする事業である「地方創生連携事業」の取り組みの1つ。ラグビーW杯2019、東京2020大会を契機とした、地理的優位性を活かしたオンラインワンの魅力づくりを目指した、2018年度から2020年度まで3カ年の連携事業です。

事例2：富山市事業構想研究会 ▶

富山市がこれまで取り組んできたコンパクトシティ形成を中心とした施策や事業を再評価し、「選ばれるまち」としてのプレゼンスをさらに高めるための方法を検討し、具体的な事業として構想し実現に繋げていくために、事業構想大学院大学の院生・修了生と、これまで実際に富山市で事業を行ってきた行政職員・民間事業者とともに実施する研究会です。



大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025 共創パートナー」

大阪・関西万博は、SDGs万博とも言われます。2020年12月に、関西・大阪万博「TEAM EXPO 2025 共創パートナー」に参加しました。MESAP (MPD Team EXPO / SDGs Acceleration Program) は、異なる資源・スキル・経験を持つ学内および学外ネットワークメンバーを有機的に結合し、SDGsの達成に寄与する新事業の構想と実践を通じて、持続可能な未来社会の構築に積極的なリーダーシップを発揮します。

* : MESAP = 本学におけるTeam EXPOならびにSDGsを推進するためのプログラムの総称

院生・修了生のチャレンジ

- 院生・修了生の事業構想の実現に向けたチャレンジ
- 院生・修了生勉強会にて2025に向けた構想を検討

プロジェクト研究でのチャレンジ

- SDGs新事業プロジェクト研究内での取り組み
- 拠点である大阪校でのプロジェクト研究内での取り組み

新たなチャレンジ

- 大阪・関西万博での共創を基にした新事業の開発
→大阪万博 新事業プロジェクト研究 (検討中)

大阪・関西万博概要

- 開催期間：2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間
- 開催場所：大阪 夢洲(ゆめしま)
- 会場面積：約155ha
- 想定来場者数：約2,800万人
- 経済波及効果(試算値)：約2兆円
- メインテーマ：
いのち輝く未来社会のデザイン
“Designing Future Society for Our Lives”
- サブテーマ：
Saving Lives (いのちを救う)
Empowering Lives(いのちに力を与える)
Connecting Lives(いのちをつなぐ)

